

特集 元気に出会う!

パンの缶詰が
世界の飢餓を救う

azbil FIELD | 株式会社 ブロードバンドタワー
PT. PERTAMINA(プルタミナ)

azbil MIND | 被災地の早期復興に向けた取組みを
グループの総力を挙げて推進する



Ir a la escuela y los amigos



パンの缶詰が 世界の飢餓を救う

パン・アキモト社長
秋元義彦さん

1年前の3月、東日本大震災の発生によって多くの地域が混乱に陥った。栃木県那須塩原市にあるベーカリー「パン・アキモト」は、震災発生直後から支援物資を東北へ送り続けた。被災者へ届けたのはパンの缶詰。といってもいわゆるカンパンではない。過去の被災地支援活動から学んで独自開発した焼きたてのおいしさを味わえる不思議なパンである。



秋元 義彦 (あきもと・よしひこ)
1953年栃木県生まれ。法政大学経営学部卒業。製パン会社で2年間の修業を経て、実家の秋元ベーカリーに入社。95年「パンの缶詰」を開発。98年株式会社パン・アキモト代表取締役社長就任。2005年日本経済新聞社社長賞、08年安藤百福賞「発明発見奨励賞」を受賞。新聞のコラムニストという一面も持つ。
<http://www.panakimoto.com/>

- ①パン・アキモトの「パンの缶詰」。缶を開けると紙に包まれたパンがいっぱい詰まっている。
- ②飢餓にあぐケニアの小学校を視察する秋元さん。子どもたちにパンの缶詰は大好評だった。
- ③東日本大震災の被災地ではパンの缶詰の輸送と配布を続けた。
- ④2年間、非常食として備蓄された後、いったん回収され、世界に届けられるパンの缶詰「救缶鳥」。





ケニア

アフリカの飢餓国の現状を見て、パンの缶詰への感想を聞こうと視察した。お腹をすかせた子供たちの本音を聞きに、郊外の学校を回った。



ハイチ

2010年のハイチ大地震では23万人もの死者を出し、劣悪な環境の中でコレラがまん延した。NGOや海外企業と交渉し、現地へパンの缶詰を届けた。



東日本大震災・被災地

震災発生直後からパンの缶詰の在庫を放出し、賞味期限が迫ったパンの缶詰を回収しては、避難所や仮設住宅へ届けた。大好評となり多くの要請を受け、できる限りの支援を続けた結果、会社は資金難に陥っていく……。



阪神・淡路大震災での教訓から 全く新しいパンを開発する

- ①賞味期限が製造日より37カ月保存可能な「おいしい備蓄食シリーズ」。売上の約6割を占める主力良品に成長した。2009年にはスペースシャトルに乗って宇宙でも食べられた。「NASUからNASAへ」とだけじゃ好きな秋元さん。
- ②缶切りなしで開封でき、簡単にパンを引き出せる。缶の裏には災害用伝言ダイヤルの情報などを記載。
- ③那須塩原にある本社工場売店。沖縄工場も含め、社員は50人弱の中小企業だ。
- ④1947年の「秋元パン店」創業当時の写真。



3年前のパン しっとり香り豊かな

大きな空が広がる那須塩原の田園地帯に「パン・アキモト」はある。毎日深夜2時からパンを作り始め、3カ所の直売所で焼きたてのパンを販売するほか、ホテルにパンを配達している。

東日本大震災で那須塩原は震度6弱を記録。パン・アキモトでも工場の什器や配管に被害を受けた。代表取締役社長の秋元義彦さんは、自社も被災したにもかかわらず、当日から被害が甚大な被災地の支援に動きだした。迅速な対応には、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震などで支援活動を行ってきた経験が活かされた。支援物資には、その日に焼いたパンのほかに大量の「パンの缶詰」を積み込んだ。

パンの缶詰とはどんな味だろうと思っていると「舌が上がっていた」のだと、秋元さんは会議室にあったイチゴ味の

パンの缶詰をパカッと開けた。同社で販売するパンの缶詰の賞味期限は37カ月が基本。開けたのは賞味期限が迫る3年物だ。初めに一口食べた秋元さんは「大丈夫そうですわ」と笑って、勧めてくれた。パンはしっとりとしていて、やわらかい。小麦の味がしっかり感じられ、イチゴのフレッシュな香りも心地いい。素直においしい。

このパンの缶詰は、1995年の阪神・淡路大震災がきっかけで生まれたと秋元さんは話す。「地震発生後、父と一緒に自分たちも支援をしようと考えました。お金を送るのも一つの方法だが、せうかくパン屋をやっているのだから、おいしいパンを届けるのが一番だと考え、2日後には神戸に向かいました。3日後からパンを配り始めましたが、うちのパンは保存料、防腐剤などの添加物を使っていないため、次第に劣化してしまっただけです」

結局、半分近くのパンを廃棄することになり、秋元さんの心は痛んだ。

「悔しさを味わいましたが、一方で人は大変な状況にあるからこそ、平穏な日常で食べていたパンを喜んでもらえるという手応えがありました。そして、保存性とおいしさ



を両立する商品開発が宿題となったのよ」
初めは真空パックの応用に挑戦した。しかし、どう工夫してもパンは堅くべちゃんこになったまま戻らない。そんなある日、近所の農産加工場で缶詰の作業を見て、秋元さんは「これだ」とひらめく。だが、ここからが大変だった。

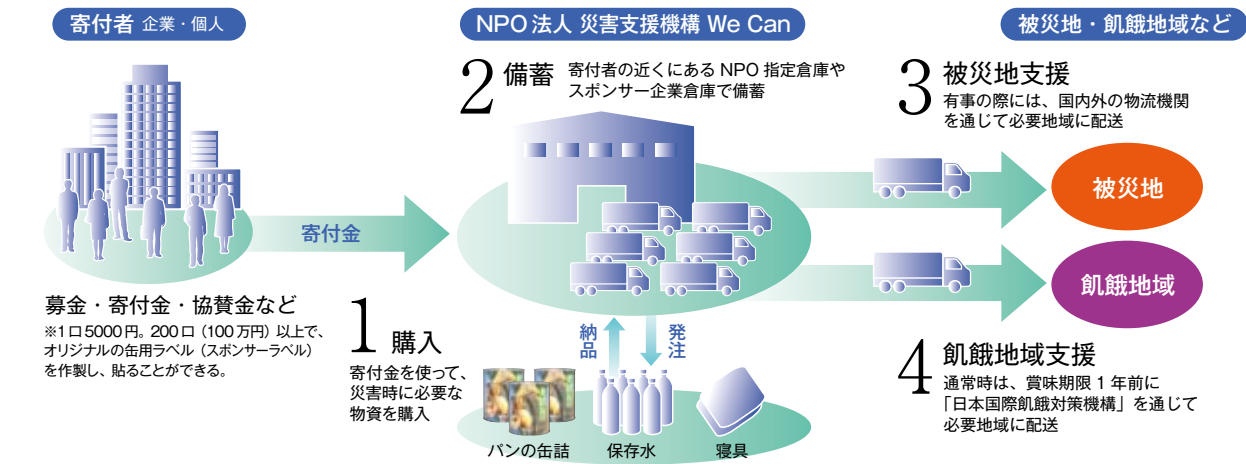
ひらめきと試行錯誤を 繰り返して生まれた商品

「焼いたパンを缶に入れるのって実は難しいんです。ふんわりしたパンをつぶさずに入れるという形状的な難しさに加えて、殺菌の手間とかかなりのコストがかかる。高価な商品にはしたくないので、生地を缶に入れてから焼こうと発想を転換しました。これならパンが空中浮遊園にさらされるリスクも減るし、加熱殺菌もできるだつ」と、生地を缶に入れてオーブンへ。うまく焼き上がったものの、今度はパンが缶にくっついて取り出せないという問題に直面した。

「助けてくれたのはカミ様なんです」と秋元さんは笑う。パンは紙に包まれている。つまり生地を紙でくるんでから缶に入れ、焼き上げているのだ。

「初めに試したのはクッキングシートやベーキングシート。でもこれらはするつと紙だけが抜けてしまふ。ほどよく調湿してパンの方にはくっついてほしい。そしてたどり着いたのが和紙。日本家屋では障子が調湿の大きな役目を果たしているということから発想したわけです。和紙では強度が足りないのので、和紙のような特性を持った強い特殊な紙を海外で探してきました。そしてようやく、無菌無酸素UVカット状態で保存性に優れ、しっとりとしたパンの缶詰が完成しました」

■災害支援機構 We Canの仕組み図



秋元さんが発案して立ち上げられたNPO法人 災害支援機構 We Can の仕組み。備蓄品として、より充実を図り、被災地や飢餓地域の支援を円滑に行うためのシステムだ。

右: 15年以上の付き合いになるという缶詰用機械会社の担当者と打合せ。缶の品質にも細心の注意を払う。一般的に缶の製品保証が3年であるのに、4年以上の賞味期限を設定している類似品の出現を秋元さんは心配する。左: 工場併設のキッチンでつとろく秋元夫妻。多忙のため、食事は3食ともここで済ませることが多いとか。



パンを届けるために 発揮される行動力

2010年のハイチ大地震では、秋元さんは3万5千の救缶鳥とともに現地へ飛ぶことに決意した。しかし、日本政府に「前例がないから」と輸送を拒否された。それでも持ち前のフットワークと交渉術を駆使して局面を打開し、アメリカの運送会社とタイアップすることでなんとか現地入りした。

「私も商人ですから、相手のメリットをできる限り創り出してビジネスとして成立させます(笑)。でも心身ともに疲れ切った子どもたちが『こんなおいしいパンを食べたのは初めて』と喜ぶ姿を見たら、そんな苦労は吹き飛びましたね」

東日本大震災では、救缶鳥はもとより、在庫の1万5000缶を放出し、可能な限り生産して被災地へ送り続けた。秋元さんは社員に「パン屋としてできることをしよう」と言い続けた。3月中旬に1000万円以上のパンを届け、多くの被災者の笑顔につながった。しかし、会社の経営は急激に悪化していく。4月、テレビ番組でパン・アキモトの活動が取り上げられると、「アキモトを救え」アキモトは義援金をパン

にして届けてくれる」と全国から寄付金が続々と集まった。

「突然店に現れたおじいさんが、ポイント200万円を置いていったこともありました。『せめてお名前だけでも』名乗るほどのものではない」といったやりとりも(笑)。

2千数百万円の寄付金を原価に充て、秋までに10万缶以上を被災地へ送り届けた。秋元さんは常に改善を加えながら前進する。東日本大震災の経験から、国内の支援物資の仕組みを根本的に変えようとして、「災害支援機構 We Can」を発案した。全国に備蓄されている支援物資を有事の際にいち早く、効率的に届けるための寄付のシステムだ。指定倉庫に備蓄できるため省スペースになり、万が一の場合には自分たちの地区で備蓄する以上の量の支援物資を寄付者は受けられる。

「私の父はパン屋を始める前は国際線のパイロットで、数力国語を話す人でした。父は先生には国境はないと大きな視野を持った人物で、『前例がないからやってみよう』というのが口癖でした。そんな飛行機乗りのDNAが、私の中にもあるのかもしれないですね」

秋元さんはいよいよパンを作ろうとひたむきだ。そして彼の目は、常に世界と未来に向けられている。

国境と時空を超えて、おいしいパンを無駄なく、より効率的に届けるという使命

■世界の飢餓の現状

5人に1人

世界人口の5人に1人は1日1ドルで暮らしている。

6人に1人

世界人口の6人に1人が飢えに苦しんでいる。

6秒に1人

5歳未満の子どもが6秒に1人飢えて命を失っている。

世界人口の2倍

世界の穀物生産高は、世界人口の2倍の人口を養える量。

1人当たり150kg

日本人1人当たりの年間食品廃棄物の量。

※日本国際飢餓対策機構ホームページから



「救缶鳥」1セット12,000円。オリジナル・レーズン・イチゴ各5缶入り。1缶に菓子パン約3コ分に当たる200gのパンが入っている。2年後の下取り回収後、2回目以降の購入は割引になる。



缶の裏側には被災者に向けてメッセージを書くスペースがある。ラベルはオリジナルラベルに仕上げることも可能。支援物資となる際には、企業の社会貢献活動としてアピールすることもできる。

食わずに済むのが幸せ というジレンマ

一男一女に恵まれた秋元さんにとって、パンの缶詰は5番目の我が子だという。愛情を注ぐ商品はたまにユニークグッズとして取り上げられるが、売上は伸び悩んだ。その状況が変わったのは2004年の新潟県中越地震だ。秋元さんはパンの缶詰を車に積んですぐに現地入りした。

「被災者の方においしいと喜んでいただけたのは、本当にうれしかったですね。この震災後、非常食を備蓄することの重要性、そしてそれがおいしいものであることの大切さが認識され、学校や企業からの注文が一気に増えました」

工場の生産能力が追いつかず、沖縄に缶詰専用の工場を開設し

た。しかし、パンの缶詰はできれば食べる機会が訪れない方がいいという宿命の商品。かわいい我が子が捨てられていくのは忍びない。そんな折、スマトラ沖地震が起きた。「とにかく食料がほしい、中古でもいい」という逼迫した状況でした。送る物資はあるが、輸送方法と費用の問題や現地での受け取り配布すらもとと賞味期限が長いので、あらかじめ残りの賞味時間に余裕を持たせて、本当に必要とする場所へ届けるシステムを作れないか? そうして生まれたのが「救缶鳥」です。

救缶鳥は3年の賞味期限のうち、2年間は有事用の非常食として備蓄する。購入から2年が経過する

1〜2カ月前に購入者に連絡が入られ、支援活動のために下取り回収される。残り約1年の賞味期限の間にNGOの日本国際飢餓対策機構を通じて、飢餓に苦しむ国々に輸送され、現地スタッフによって適切な場所に届けられる仕組みだ。「安心できる非常食として災害への備えを始める。その瞬間から2年後の国際貢献もスタートできると考えることができます。救缶鳥は通常商品の2倍の大きさですが、これは缶を食器として活用したいという現地の意見から改善しました。日本ではいすれ「3」になっちゃう備蓄品を無駄なくリユースしてもらえるのです。作り手としてもこんなにうれしいことはないですね」

株式会社
ブロードバンドタワー



投資対効果に優れたソリューションの導入で 既存の大規模サーバールームにおける電力削減を実現

高品質なデータセンターサービスの提供を通じて、顧客企業のIT活用に高度な付加価値を提供するブロードバンドタワー。同社では、既存の大規模サーバールームにおける空調機にかかわる省電力化を目指し、気流制御のためのソリューションを採用しました。事前のシミュレーションと綿密な工程設計により、稼働中の顧客システムに一切影響を及ぼすことなく導入を実現し、その成果は約8.8%の空調電力削減という形で表れています。

大規模サーバールームにおける 空調電力の省エネ化が課題に

ITが企業のビジネス活動や人々の社会生活に欠かせないインフラとなる中で、情報システムの稼働を支えるデータセンターの果たす役割がますます大きくなっていきます。株式会社ブロードバンドタワーは、東京に3カ所、関西に1カ所、計4カ所のデータセンターを通じて、「コケーション」やホスティングをはじめとするデータセンターサービスを提供。顧客企業のIT活用にも高度な付加価値を提供しています。中でも、日本の通信インフラの心臓部ともいえる東京都千代田区に置かれた同社の第1サイトは、その基幹センターに位置付けられる拠点です。近年、企業の社会的責任(CSR)の観点からも社会的な要請が高まる電力削減に向けた施策に、早くから積極的に取り組む、大きな成果を上げてきました。

力の最も多くの部分を占める空調電力を約20%削減することに成功したという実績があります。「そうした取組みを重ねることで、当社では省電力のノウハウを積み上げてきています。しかし、別フロアにある1200㎡という規模を持つサーバールームの省電力化を進めていくとすると、スペースが非常に広いことやお客さまごとに関与の配列が様でないといった事情もあり、既存のノウハウだけでは対応できないという課題に突き当たったのです。」(高橋氏)

稼働中の既存サーバールームでシステム 影響を及ぼすことなく電力削減

ブロードバンドタワーではそうした課題を解消するためのソリューションの検討に着手。空調機器ベンダーの製品などを含むいくつかの候補を綿密に比較検討した結果採用したのが山武のデータセンター向け環境ソリューション「AdaptiveCOOL」*だった。

「選定に当たって重要な要件となったのが、導入に伴う作業が稼働中のお客さまのシステムに、絶対に影響を及ぼさないこと。そのため、室内環境が大きく変わる規模の工事は行えません。その点、AdaptiveCOOLは、工事をを行う前に綿密なCFDシミュレーションを実施

*AdaptiveCOOLは、Degree Controls社の商標です。

し、床冷却ファンや温度センサを取り付ける場所の検討を十分に行うことで工事を済ませます。設置自体は比較的簡単な作業で済むことから、我々の要件を満たすことができるかと考えました。併せて、投資対効果が非常に高いと判断したことも導入の決め手となりました。」(高橋氏)

「単に製品を売るというだけではなく、導入運用に先立つコンサルティングやCFDシミュレーションによる熱気流解析の実施なども含めたサポートを買って提供してくれるという山武のスタンスにも、非常に心強いものを感じました。」(吉野氏)

その後の導入工事においては、稼働する顧客のシステムに一切の影響を与えないようにするための細心の注意が払われました。具体的には、工事を3つのステップに分けて行うというものです。各ステップ完了時のフロア全体の温度状況についての詳細なシミュレーションを施工に先立って実施し、万全を期しました。

ことで、工程の計画と調整は複雑を極めました。このことについても、山武が十数回にも及びシミュレーションを実施して、最適な工程を提示してくれました。」(三浦氏)

「特に難しかったのが、導入の対象となったサーバールームでは、お客さまのラックが配置されたエリアごとに、求められる空調温度が異なるという点でした。つまり、3ステップにわたる導入期間中も通常の運用時と変わらぬ、そうしたエリアごとに設定された温度を維持できなければ、お客さまのシステムには、たとえ微細であっても性能面での影響が及び可能性があるという

こと、工程の計画と調整は複雑を極めました。このことについても、山武が十数回にも及びシミュレーションを実施して、最適な工程を提示してくれました。」(三浦氏)

「電力削減以外にも、停止させた8台の空調機を予備機として待機させることが可能となりそれによって稼働中の空調機の定期メンテナンスや故障などに対する冗長性が向上する」という副次的な成果も得られています。」(吉野氏)

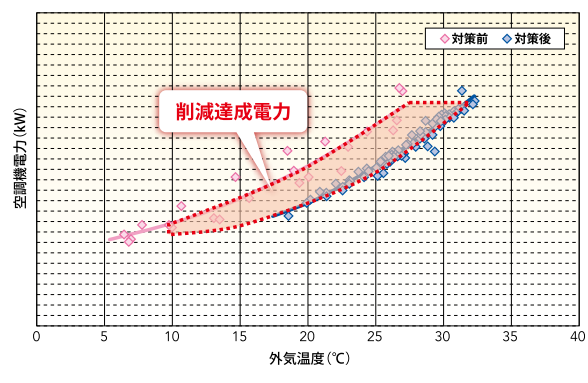
今後、ブロードバンドタワーでは、千代田区にある第1サイトをはじめ、同社が展開するすべてのデータセンターにおける省電力の取組みのさらなる強化を目指していく構えです。そうした中で、今回のAdaptiveCOOL導入において培われた様々なノウハウが活かされるものと期待されています。



ラック上部に取り付けられた温度センサ。

サーバールーム内に15台設置されている床冷却ファン「HT-510」。その配置は、山武のCFDシミュレーションに基づく熱気流解析により決定されている。(グリルパネルを外した状態で撮影)

■空調機電力と外気温度の相関



こうした取組みの結果、ブロードバンドタワーでは当初の目的どおり、データセンターサービスの品質を損なうことなくAdaptiveCOOLの導入を完了。その結果、33台中8台の空調機を停止させることができ

「東日本大震災後、我が国は切実な電力不足に見舞われ、その後も継続的に企業や家庭での電力利用の効

用語解説

- *1:コロケーション
利用者のサーバ設備やネットワーク機器などをデータセンター内に設置する場所を提供するサービス。
- *2:ホスティング
サーバ設備やネットワーク機器など、アプリケーションを動作させるのに必要なインフラ全般を提供するサービス。
- *3:グリルパネル
床下を通ってきた冷風を吹き出すための格子状の穴が開いた床パネルの一種。
- *4:CFD (Computational Fluid Dynamics) シミュレーション
数値流体力学によるコンピュータシミュレーション。山武のノウハウと併せて、サーバールーム内の熱だまりの状態をシミュレーションする。
- *5:プランキングパネル
ラックに収納されたサーバ機器へのエアフローを確保し、冷却効果をアップさせるために用いられるパネル。

株式会社
ブロードバンドタワー



本社所在地：東京都港区赤坂4-2-6
住友不動産新赤坂ビル7F
設立：2000年2月9日
事業内容：コンピュータプラットフォーム事業、
Eコマースプラットフォーム事業



PT. PERTAMINA



制御システムの更新を定修と同時に実施 生産への影響を最小限に抑え、今後の省エネルギーにも貢献

インドネシア内の産業や人々の暮らしにエネルギーを安定的に供給しているPT. PERTAMINAでは、老朽化したDCSの更新をプラントの定修のタイミングに合わせて実施。システム更新作業による生産量低下を最小限に防ぎ、リニューアルを実現しました。今後は環境対策にも取り組んでいく予定です。

稼働から20年が過ぎ 制御システムの更新が課題

PT. PERTAMINA(プルタミナ)は、1957年に石油とガスを安定的に供給するためにインドネシア政府が設立した石油関連企業です。そして2001年11月、エネルギー資源のさらなる有効活用を目的に民営化され、現在では国内最大規模の石油ガス関連企業へと成長してきました。同社はインドネシア各地に石油天然ガスの採掘基地を持ち、ガソリンや軽油・重油から液化天然ガス(LNG)、ジェット燃料などの各種燃料の製造をはじめ、アスファルトやコークスなどの非燃料系製品、ベンゼンやパラキシレンといった石油化学製品まで、幅広い石油製品を扱っています。インドネシア国内はもちろんだ、海外での知名度も向上しており、2015年を目標に東南アジアを代表するトップ企業に成長するため、「コスト削減や環境対策などに取り組みむなど社内意識改革にも挑戦しています」。

現在、プルタミナは6つの製油所を所有しています。特にチラチャップにある第4製油所は34万8千バレル/日の生産能力を誇り、ガソリンや航空機の燃料、ディーゼルオイル、液化石油ガス(LPG)などの燃

システム更新を定修に合わせ 短期間で更新が完了

パラキシレンプラントでは老朽化したシステムの更新に際し、短期間での施工を条件に提案を4社に依頼。システム更新に起因する工期遅延による生産量低下のリスクを軽減するため、遅延が発生した場合、ベンダーにペナルティを課すという厳しい要求を行いました。そして各ベンダーのプランを綿密に検討した結果、山武と山武の現地法人アズビルバルカインドネシア(ABO)がパートナーとして選ばれたのです。

ため、システム更新に際してもプラントの停止期間を必要最小限に抑えることが責務だったのです」(Ibnu Zaenali氏)

そこで山武とABOは、プラントの部分定修と並行してDCSを更新するプランを提案しました。具体的には、更新作業工程のうち、プラント稼働中に一部を切り替えるHCOを実施し、プラントの停止が必要な切替作業(HCO)のみをプラントの生産が停止する部分定修のタイミングに合わせて実施するというものでした。切替作業に要した期間は2日間でしたが、部分定修期間中の切替作業であったため実質的な停止期間をゼロに抑えることができました。

「HCOとCCOを組み合わせるこの方法ですが、実は1990年代後半、ここチラチャップにある2つの石油精製プラントのDCS化にも採用した方法で、通常の切替作業

業に比べ停止時間を大幅に削減することができました。そのときのパートナーが山武でした。突発的な状況にも柔軟に対応できる高いエンジニアリング力など、過去の実績も考慮して今回の採用を決定しました」(Dadi Sugiana氏)

運転効率の向上が 今後の事業運営の課題

今回のシステム更新では切替時間を短縮し、「コストを大幅に削減するため、現場に設置されたセンサやバルブ、ターミナルパネルなど、問題なく稼働している設備は極力現状のまま有効利用をし、DCSのみを置き換えることで対応しています。新しいDCSには山武の監視制御システム Harmonas-DEO™を採用。使い勝手はそのままだに、システムの置き換えを実施しても通常と変わらない操作性・生産性を実現しています」。

「DCSの更新は、プラントの部分定

修でシステムが停止するタイミングで行います。そのため、DCS更新のタイミングが定修の進行状況に応じて変わってしまうという事情がありました。繰り返されるスケジュール変更にもかかわらず、DCSの置き換え作業は滞りなく当初の予定どおり作業を終えることができました」(Erfan Gafar氏)

現在、インドネシアでは上下の大統領が2025年までにCO₂排出量の18%削減を言及しており、国内の主要産業に対してもCO₂排出量削減対策を求めています。それに呼応するため、プルタミナでもCO₂およびエネルギーコストの削減に取り組んでいます。

「パラキシレンプラントがインドネシア政府と締結しているパフォーマンス契約の1つにエネルギー消費量の最適化があります。我々は炉の最

用語解説

- *1:DCS (Distributed Control System)
分散制御システム。プラント・工場の製造プロセスや生産設備などを監視制御するための専用システム。構成する各機器がネットワーク上で機能を分散して持つことで、負荷の分散化が図れ、安全でメンテナンス性に優れている。
- *2:定修
各種生産施設やプラントで定期的に実施される大規模な点検・修理作業。定期修理。
- *3:HCO (Hot Cut Over)
プラントを稼働させたまま各種システムの交換、あるいは更新を行うこと。
- *4:CCO (Cool Cut Over)
プラントを完全に停止させた状態で各種システムの交換、あるいは更新を行うこと。

PT. PERTAMINA



本社所在地: Jl. Medan Merdeka Timur
1A, Jakarta 10110
設立: 1957年12月
事業内容: 石油・ガスとその加工品の製造と販売、地熱発電をはじめとする地熱エネルギー事業、液化天然ガスの生産

Refinery Unit IV, Cilacap
(Paraxylene refineries.)
所在地: Jl. Letjen Haryono MT. 77
Lomanis, Cilacap Jawa
Tengah 53221
操業開始: 1990年12月



Engineering & Development
Deputy Section Head
Dadi Sugiana氏



Project Engineering
Deputy Section Head
Erfan Gafar氏



Facility Engineering
Sundhoro R氏



Paraxylene
Section Head
Ibnu Zaenali氏



Paraxylene
Deputy Section Head
Imam Udiantoro氏

被災地の早期復興に向けた取組みを グループの総力を挙げて推進する

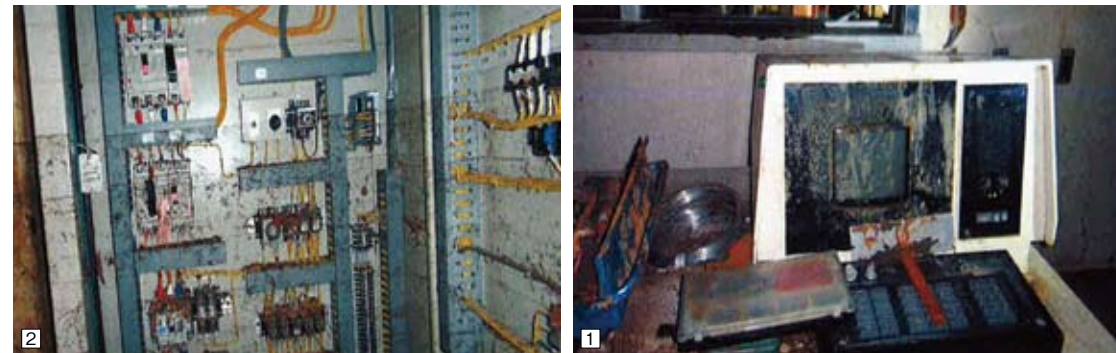
2011年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源として発生したマグニチュード9.0の巨大地震により引き起こされた東日本大震災。特に地震発生後に押し寄せた大津波によって多くの人命が失われ、家屋や産業にも甚大な被害がもたらされました。azbilグループでは、震災発生直後から、被災地への物資、義援金の提供に加え、お客さまの復旧を支援するための活動を開始。被災地の1日も早い復興に向けた取組みに、全社一丸となって注力しています。

**万全な放射線対策で
社員の安全と被災地復旧を両立**

azbilグループでは、東日本大震災発生後、速やかに山武の社長を最高責任者とするazbilグループ中央対策本部を設置。事業を構成する3つの柱であるビルディングオートメーション(BA)事業、アドバンスオートメーション(AA)事業、そしてライフオートメーション(LA)事業の各側面から、被災地を中心としたお客さまに対する緊急時対応を開始しました。以降、復興に向けた取組みの支援にグループを挙げて注力してきました。震災から1年を経て、各事業における震災発生当時の緊急対応を改めて振り返ります。

まず、建物分野のBA事業を担うビルシステムカンパニー(BSC)では、震災発生後の3月11日には社員が徹夜で待機してお客さまへの対応に当たりました。そして、週明けの14日にはカンパニー社長を責任者として緊急対策本部を立ち上げ、営業、技術、サービスの各部門が一体となって、お客さまの本格的な支援に向けた検討および活動を行うための体制をスタートさせました。

復旧支援に関して、火力発電所、



① 仙台市内で被災した病院の空調の中央監視装置。津波をかぶり大破している。公共性の高い施設から集中的にBSCが立上げを支援している。
② プレーカヤリレー回路などが取められた制御盤も津波で水に浸かり、使えない状況となった。
③ 街の中の至る所が、津波で押し流されたがれきりや車で埋め尽くされている。

空港、駅舎、病院といった公共施設の対応を最優先。これらの中には、福島第一原子力発電所の半径20km圏内に位置する施設もありましたが、地域住民の生活にとって重要な公共施設であることから、1日も早い復旧が必須であると判断、支援に当たりました。現場作業時

の懸念事項である放射線に対しては、線量計、防護服などを早急に手配し、放射線に関する知識や健康対策を習得させるためのオリエンテーションを実施するなどの万全な被ばく対策を取りました。建物は震災の影響を大きく受けていなくても津波で機器が水をかぶってしまった現場などで、空調に必要な熱源設備の復旧から、設備全体の管理・制御を行っている中央監視装置の立上げなどを行っていました。社員を放射線から守る態勢が早い段階で整ったことで、お客さまの現場へいち早く駆け付けることができ、迅速に復旧支援することができました。

これら今回の震災対応の経験を

**社会インフラを中心とした迅速な
復旧にグループ一丸となって対応**

通して得られた知見やノウハウは、今後の有事発生時に際しても確実に活かされていくことになり
ます。例えば、2011年7月に発生したタイの洪水被害に対する復興支援室を国際本部が中心となって設置。人材の派遣、物品の供給を含めた対応を継続的に強化しているところがあります。

工業分野のAA事業を展開するアドバンスオートメーションカンパニー(AAC)では、震災発生後に東北以北のお客さまに対してお見舞いと復旧支援申入れのメールを送信。お客さまのプラントや工場など

から緊急立上げ要請があった場合には、サービス部門が交通網等の状況を鑑みながら、現場に駆け付けるという対応に当たりました。

また、製油所や火力発電所、水道、ガスといった社会インフラにかかわるお客さまに対しては、早期復旧のための緊急プロジェクトを立ち上げました。地震発生により装置を緊急停止した関東のある製油所では、山武の営業サービスエンジニアリング部門の連携による迅速な復旧支援により、装置の安全確認完了後から順次プラントの立上げを開始。3月14日にはお客さまの製油所から東北方面へのローリー出荷が開始されました。そして、原子力発電所の被災により電力不足が緊急課題となった際には、国の要請により震災発生前に操業を休止していた火力発電所の再立上げが行われましたが、こどもも山武が復旧支援を行っています。

また、部品調達の面においては、物流の混乱やサプライヤーの被災によって、復旧時に必要な部品の入手が滞ってしまう懸念が発生しました。これには、各部品の使用頻度や在庫量、サプライヤーの状況、供給が平常どおりに復旧する見込み時期などの情報をazbilグループの生産部門、調達部門を中心に収集。

特に優先されるべき社会インフラにかかわるお客さまへ部品の安定供給に向けた検討を行うとともに、調達が困難になりそうな部品に関して代替部品の利用の可能性を探るべく、開発部門で検証するという取り組みも実施しました。このように各部門の対応、部門間での連携・情報共有を行い、AAC一体となってお客さまの復旧支援に当たりました。

**震災発生により不安を訴える
高齢者のメンタルケアに努める**

LA事業は、その一翼を担う安全センターにおいて、24時間365日体制で一人暮らしの高齢者をサポートする緊急通報サービスを提供しています。3月11日の地震発生後には交通網の寸断により、夜勤スタッフが出社不能になるという事態に直面。日勤スタッフがそのまま連続して対応することにより24時間の通報受信体制を継続しました。

翌12日には営業部門、情報システム部門の全員が出社。緊急時の対応について以前から整備をしていた社内規定に基づき、震度5弱以上を観測した数多くの自治体の緊急通報サービスをご利用の皆さまに対し、一人ひとりの安全を確認して自治体へ12、13日の2日間報告しました。そのほか、自治体からの

要請によって、避難勧告に対するご利用者さまの避難対応状況について確認を行うケースもありました。震災後も、緊急通報サービスにはご利用者さまから数々の相談が寄せられており、安全センターでは不安の解消に導けるよう対応に努めてきました。相談の中には、計画停電に不安を感じるご利用者さまの声もありました。それに対しては計画停電の概要や、当該エリアの停電時間帯を説明することにより、相談者にご安心いただきました。また、ご利用者さまが自分で避難ができない、あるいは停電のために酸素濃縮器など医療機器が使用できないといった相談もあり、必要に応じて自治体や医療機関に連絡して対応を依頼するといった対応も行っていきます。

現在では、そうした緊急対応はある程度収束しつつあり、仮設住宅におけるモバイル版緊急通報装置の設置など、今後に向けた支援を自治体とも協力しながら進めているところです。

東日本大震災からの本格的な復興への道のりはまだまだ長く、今後とも長期にわたる取組みが続けられていくこととなります。azbilグループでは、全社一丸となって、被災地の1日も早い復興に向けて全力を尽くしてまいります。



震災の影響で交通が機能していない中、情報共有手段としてAACで利用されたWeb会議の様子。本部の藤沢テクノセンターと、全国各地の営業・サービス・エンジニアリング担当者をつなぐ。

Present

パンの缶詰
レギュラーシリーズ 5種

特集で紹介したパン・アキモのパンの缶詰から、レギュラーシリーズの5種(メイプル、チョコクリーム、粒々いちご、ミルククリーム、はちみつレモン)を1セットにしてプレゼントします。賞味期限は製造日から13カ月。



- パン・アキモ
- 価格400円(1缶・税込)

本商品を5名の方にプレゼントいたします。お名前、貴社名・部署名、ご住所、電話番号、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号をご記入の上、下記宛先に3月末日までにご応募ください。厳正な抽選の上、当選者ご本人に直接当選の連絡をいたします。なお、社員並びに関係者は応募できません。

azbilグループPR誌「azbil」をご愛読いただき、ありがとうございます。

- 本誌に関するお問い合わせやご意見、ご希望、感想、取り上げてほしいテーマなど、皆さまからのお便りをお待ちしております。お名前、貴社名・部署名、ご住所、電話番号、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号などをご記入の上、下記まで郵送、FAX、電子メールなどでお寄せください。
- ご住所などの変更に関するご連絡は、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号も併せてお知らせください。
- お問い合わせ・プレゼント応募宛先 〒100-6419 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル株式会社 山武 azbil 編集事務局 TEL: 03-6810-1006 FAX: 03-5220-7274 E-mail: azbil-prbook@azbil.com
- 発行日: 2012年3月1日
- 発行: PR誌 azbil 編集事務局
- 発行責任者: 高橋 実加子
- 制作: 日経BPコンサルティング

編集後記

パン・アキモの「パンの缶詰」を早速いただきました! バカッとふたを開けた途端にふわ〜と甘い香りが漂い、特集に書かれている通りに紙に包まれたパンがすると缶から出てきました。パンはふわふわに柔らかくてとてもおいしかったです。非常食と思えないおいしさで、毎日食べたい! という声が上がったほどです。災害などの厳しい状況の中では、本当にうれしい非常食なのではないでしょうか。社長の秋元さんの思いと人柄が、このパンに表れていると思いました。(akubi)

米国Degree Controls社への出資契約を締結
～azbilグループの環境制御事業の強化～

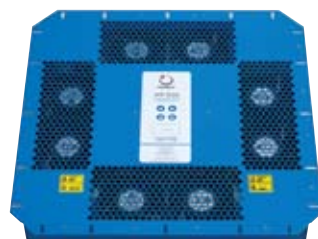
株式会社 山武は、ビルディングオートメーションにおける環境制御事業の強化の一環として、米国Degree Controls社への部分的な資本参加を決定し、出資契約を締結しました。今回の出資金額は日本円で約2億円、出資比率は約13.8%です。今回の出資により、山武は同社の事業上の戦略パートナーとして、営業および技術開発の協業を進めます。

これまでに山武は、2009年1月にDegree Controls社の「AdaptivCOOL*1」の日本国内における販売契約を締結、同年7月から販売を開始しています。AdaptivCOOLは、データセンターの課題とされている熱だまり*2や冷やし過ぎを解消し、最適な温熱環境を実現するソリューション商品です。今後はAdaptivCOOLを国内のデータセンター市場のみならず、高発熱負荷の課題を抱える市場に積極的に提案していきます。

●株式会社 山武 経営企画部広報グループ TEL: 03-6810-1006

また今回の出資を機に、AdaptivCOOL以外の熱対策技術、温度・気流センサ、熱負荷ソリューションの事業領域においても、Degree Controls社と協働で新しい事業展開を検討していきます。

- *1 AdaptivCOOLは、Degree Controls社の商標です。
- *2 サーバの排熱や床下配線による床吹冷却空気の阻害などが原因となって発生する。



AdaptivCOOL 床冷却ファン

生産子会社の山武コントロールプロダクトを吸収合併
～azbilグループ全体の生産機能を最適化～

株式会社 山武は、生産機能を担う100%子会社の山武コントロールプロダクト株式会社を、2012年4月1日に吸収合併することを決定しました。azbilグループは、中期経営計画において、グループにおけるネットワーク経営の強化に取り組んでいます。目標の1つに、市場環境の変化に柔軟に対応できる生産体制の構築および経営資源の効率化を掲げており、今回の山武コントロールプロダクトの吸収合併は、その一環として行なうものです。これによりazbilグループ全体の生産機能の強化を図るとともに、グローバルに競争できる体制を整えます。

●株式会社 山武 経営企画部広報グループ TEL: 03-6810-1006

【合併後の会社概要】
商号: アズビル株式会社
※2012年4月1日をもって株式会社 山武からアズビル株式会社に商号変更いたします。
事業内容: 各種制御機器およびシステム機器の開発、設計、製造、販売、保守など
本店所在地: 東京都千代田区丸の内2-7-3
代表者: 代表取締役社長 曾禰 寛純
資本金: 105億2,200万円
(合併による資本金の増加はありません)
決算期: 3月31日

SECURITY SHOW 2012

会期: 3月6日(火)～3月9日(金)
時間: 10:00～17:00(最終日は16:30)
会場: 東京ビッグサイト 東3ホール
主催: 日本経済新聞社
入場料: 1,500円(事前登録者または招待状持参者は入場無料)

●株式会社 山武 ビルシステムカンパニー セキュリティシステム本部企画部企画グループ TEL: 03-6810-1119

出展内容: ●シンプル&フレキシブルシステム savic-ss EZ、IDS-MART-II(参考出展)
●統合セキュリティシステム savic-net FXセキュリティ
●在場管理・労務管理ソリューション ビジターカード管理システム テナント向け出入履歴提供サービス

今月の表紙



メキシコ/メキシコ市

●MERRY メッセージ 「学校へ行くことと友達」

●撮影メモ

AMIGOS! 世界遺産であるソチミルコとソカロ広場は、MERRYな人でいっぱい。11月だということでも暑い。メキシコは11月から「死者の日」という、日本でいうお盆の祭りで街全体がにぎわう。教会の広場でフラフラになりながら、マヤの血を引くお母さんや子供たちをいっぱい撮影。なかでも、募金活動をしている子供たちの目に未来を感じた。世界の未来はMERRYだ。

水谷事務所代表/MERRY PROJECT 主宰 水谷 孝次さん

室内換気空調の測定に必要な項目を1台で同時測定
マルチ環境測定器 testo480を販売開始

ロイヤルコントロールズ株式会社は、基準器クラスのマルチ環境測定器「testo480」を販売開始しました。

testo480は室内換気空調の測定に必要な、温度/湿度/風速・風量/CO₂/照度/輻射熱/圧力などの項目を1台でカバーするマルチ環境測定器です。本体にカラー液晶とトラックパッドキーを採用したことにより、視認性と操作性が従来品より向上しました。本体上部に3本のプローブが同時接続できるソケット、本体下部に2本の熱電対と差圧測定用のコネクタを搭載しているため、片手で持って測定を行うほか、専用三脚に取り付けて定点式の多項目同時測定器として使用することも可能です。また、testo480はデジタルプローブを採用しており、測定器の本体精度に影響されない高精度の測定ができます。

testo480は基準器クラスの精度と、ユーザーフレンドリーな操作メニューやプログラム機能により、空調設備から研究用途までご利用いただける製品です。

●ロイヤルコントロールズ株式会社 営業本部 TEL: 03-3576-6951



山武ケアネット、介護サービスセンター「かたくり辻堂」で
居宅介護支援事業を開始

山武ケアネット株式会社は、「かたくり辻堂」で居宅介護支援事業を開始しました。2010年11月に訪問介護事業所として開設した「かたくり辻堂」のケアプラン作成は、これまで「かたくり湘南」(神奈川県藤沢市本町)が担当していました。開設から1年が経過し辻堂・茅ヶ崎エリアでの新たなご利用者さまへのサービス提供により、居宅介護支援への要望も高まってきました。今回の居宅介護支援事業の開始により、ケアプラン作成から訪問介護サービスへの連携が迅速になると同時に、辻堂・茅ヶ崎エリアでのより多くのご利用者さま

●山武ケアネット株式会社 マーケティング部 TEL: 03-5718-5100

への介護サービス提供に注力します。経験豊富な山武ケアネットの介護支援専門員・サービス提供責任者・訪問介護員のチームワークで、ご利用者さまが「自分らしく意欲的に生きていく」ことができるよう支援し、併せて介護に当たるご家族の負担を少しでも軽減する環境づくりをお手伝いします。

【かたくり辻堂】
住所: 〒253-0013 神奈川県茅ヶ崎市赤松町1-6
TEL: 0467-50-1161
FAX: 0467-51-1640



山武ケアネット、介護サービスセンター「かたくりひばりが丘」・
デイサービス「かたくりの里 ひばりが丘」を開設

山武ケアネット株式会社は、介護支援を行う拠点として、東京都西東京市に介護サービスセンター「かたくりひばりが丘」並びにデイサービス「かたくりの里 ひばりが丘」を開設しました。介護サービスセンター「かたくりひばりが丘」周辺地域へのサービスは、これまで「かたくり保谷」(東京都西東京市東町)と「かたくり大泉」(東京都練馬区石神井台)が担当していましたが、ご利用者さまの増加により、介護サービスセンター設立の必要性が生じたこと、および埼玉県新座市と東京都東久留米市地域への事業拡大を目的に開設しました。

デイサービス「かたくりの里 ひばりが丘」は西東京市地域で初めてのデイサービス開設になります。武蔵野の景観を今とどめている保谷北町緑地保全地域近くに

●山武ケアネット株式会社 マーケティング部 TEL: 03-5718-5100

ある、戸建てを利用した定員10名の小規模型デイサービスです。家庭的な雰囲気の中、職員と一緒に昼食を作る、庭で草花を育てるなど、楽しみながら自然な形で機能訓練ができるプログラムを用意し、ご利用者さま一人ひとりの個性を活かした「かたくりの里」ならではの、きめ細かなサービスを提供します。

【かたくりひばりが丘】
住所: 〒202-0003 東京都西東京市北町2-6-18
TEL: 042-438-8041 FAX: 042-421-4541

【かたくりの里 ひばりが丘】
住所: 〒202-0003 東京都西東京市北町2-6-18
TEL: 042-438-8042 FAX: 042-421-4542





山梨県

下部温泉



足元から温泉が自然湧出する「古湯坊 源泉館」の「武田信玄公かくし湯大岩風呂」。

ホテル舞う自然豊かな山に湧く 武田信玄が傷を癒やした隠し湯

山間を蛇行する下部川に沿って約30軒の宿が集まる下部温泉。開湯は約1200年前といわれ、戦国時代には木材伐採や湯之奥金山などの産業を支える拠点として発展した。武田信玄の隠し湯としても知られ、信玄公が川中島の戦いで肩に受けた刀傷を癒やしたと伝えられている。

源泉は30〜32℃の低温で、多くの宿では源泉と沸かし湯の2種類の湯船を用意している。湯は特定の成分が強くないため、刺激が少なくやわらかい。源泉にゆっくり浸かると体が芯から温まり、副交感神経がよく働いてリラクゼーションできる。外傷の療養に優れた効果があるといわれ、縫い傷など手術後の湯治を目的に訪れる人も多い。2006年には約51℃ある新しい温泉も湧出。これら2種の泉質を楽しめる宿もある。周辺は全国的にも珍しい自然繁殖したホテルが見られる場所。豊かな自然と良質な湯を堪能したい。

泉質・効能

アルカリ性単純泉

無色透明で無臭。クセがなく、やわらかい。病後回復期や手術後の治療に向いており、効能は切り傷、やけど、骨折、打撲、神経痛、冷え性、疲労回復など。飲用で慢性消化器病、便秘症、胃酸過多など。

■写真の湯

古湯坊 源泉館
TEL : 0556-36-0101
<http://www.gensen1126.jp/>

〈アクセス〉

車/中央自動車道甲府南ICから国道140号線、国道52号線経由約60分。電車/JR身延線下部温泉駅から徒歩約30分。※無料送迎あり

立寄処

門西家住宅

室町時代から続く旧家で、江戸時代には金山を管理し、名主や関守を務めた門西家。現代では貴重な大きな入母屋(いりもや)造りの建物は外部から見学可能。17世紀末から18世紀初頭の建築と推定される国指定の重要文化財だ。



TEL : 0556-20-3001 (下部観光協会)



下部温泉

azbil

<http://www.azbil.com/jp/>

国内

- 山武 ●山武商会
- 山武コントロールプロダクト
- 山武フレンドリー ●山武ケアネット
- 安全センター ●セキュリティフライデー
- 原エンジニアリング ●金門製作所
- 山武瑞穂 ●ロイヤルコントロールズ
- 太信 ●テムテック研究所

海外

- アズビル韓国 ●アズビル台湾 ●アズビル金門台湾
- アズビルベトナム ●アズビルインド
- アズビルタイランド ●アズビルフィリピン
- アズビルマレーシア ●アズビルシンガポール
- アズビル・ベルカ・インドネシア ●アズビル機器(大連)
- アズビル情報技術センター(大連)
- 山武環境制御技術(北京)
- アズビルコントロールソリューション(上海)
- 上海アズビル制御機器 ●アズビル香港 ●上海山武自動機器
- アズビルノースアメリカ ●アズビルバイオビザント
- アズビルブラジル ●アズビルヨーロッパ

〈販売店〉

3 March 2012

azbilグループPR誌 azbil (アズビル)

azbil 3月号 (通算Vol.43 No.3) 国際標準逐次刊行物番号 ISSN 1881-9680



本誌には、環境にやさしい植物油インキと森林認証紙を使用しています。本誌からの無断転載・複製はご遠慮ください。